



妊産婦に対する 薬剤師の関わり方について

公益社団法人 日本薬剤師会
理事 高松 登

平成31年3月15日
妊産婦に対する保健・医療体制の在り方に関する検討会

PMDAからの医薬品適正使用のお願い

(独) 医薬品医療機器総合機構



No.10 2014年 9月

アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤（ARB）及び アンジオテンシン変換酵素（ACE）阻害剤の 妊婦・胎児への影響について

ARB及びACE阻害剤は、胎児への影響が報告されており、妊婦への投与を避けるべき医薬品ですが、国内において、妊娠の判明以降もARB又はACE阻害剤の服用を継続している症例、胎児への影響が疑われる症例が、継続的に複数例、報告されています。

つきましては、下記の事項を再度ご確認ください。ARB又はACE阻害剤の投与にあたっては、十分にご留意ください。

- 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないでください。
- 投与中に妊娠が判明した場合は、直ちに投与を中止してください。
- 妊娠する可能性のある婦人に投与する場合には、胎児に与える影響を説明し、妊娠が判明した場合は、速やかに医師に相談するよう繰り返し患者へ説明してください。



NHKニュース (2013年11月14日放送)

医師から処方された“ある薬”が原因で妊婦に副作用が出たり、胎児が死亡したりしたとみられるケースが過去10年間に20例あることが、NHKの取材で分かりました。

- 胎児は、自分の尿からできた羊水で保護されている。
- ACE阻害薬・ARBは、胎盤を通じて胎児の腎臓に作用し、尿を出にくくする。すると羊水が減って、胎児は圧迫され、腎臓や肺、それに骨などへの発育が妨げられてしまう。その結果、胎児・新生児死亡、羊水過少症、胎児・新生児の低血圧、腎不全、高カリウム血症、頭蓋の形成不全、羊水過少症によると推測される四肢の拘縮、脳、頭蓋顔面の奇形、肺の発育形成不全等があらわれる。



調剤の流れ

処方箋受付、処方監査

処方箋記載事項の確認
使用期間、医療機関・医師名、
薬歴・お薬手帳の内容確認、処方箋内容と照合・監査

妊産婦であるかの把握
投与の可否
薬物治療の理解度
経過状況の確認
心配事の有無

患者情報の収集

体質、アレルギー、副作用歴、患者やその家族からの相談事項、服薬状況、
残薬状況、服薬中の体調変化、合併症・既往歴、併用薬、副作用、飲食物等

調剤

処方箋にもとづいた薬の調製

監査

処方箋と調剤した薬剤、薬歴を照合して総合的な監査

服薬指導

投薬時に患者と一緒に薬剤、数量を相互確認
薬情、お薬手帳を用いて患者に応じた内容の服薬指導を実施

個々の妊産婦に合わせた
指導を実施

薬歴の作成

処方箋と調剤内容を再確認し、患者ごとに薬歴を作成

妊産婦の服薬状況の
一元的・継続的な把握

気をつけるべき視点

妊婦さん } ≠ 患者さん
産婦さん }

妊産婦さんの情報の把握が重要

- 正常妊娠 or 異常妊娠
- 望んだ妊娠 or 望まない妊娠
- 妊娠がきっかけの疾患 or 別の疾患
- 正常分娩 or 異常分娩
- 産後の状態・環境 等

薬の提供だけが薬剤師の仕事ではありません。
妊産婦さんの状況に配慮した情報提供や相談対応など、
様々な業務を行います。

妊婦さんへの対応

処方箋にもとづく調剤

- 妊娠に伴う症状 → 産婦人科医から処方
妊娠を把握されている
 - 妊娠が原因でない症状 → 産婦人科医以外の診療科の処方
妊娠の把握の有無を確認
 - ・処方時に妊婦への投与の可否を確認されていない可能性
 - ・薬に関して薬剤師に委ねているような事例も見受けられる
(きっと薬剤師が確認してくれるだろう)
- ★処方箋発行前に、妊婦への投与の可否を薬剤師に
確認していただきたい
- ⇒事故が防げる、薬剤師からの提案がしやすくなる

妊婦さんへの対応

OTC医薬品の販売

(妊娠前)

- 排卵日検査薬や妊娠検査薬の相談、販売、受診勧奨

(妊娠後)

- 薬の服用の必要性を判断
- 販売する場合は、妊娠時期を確認し、安全性の高い医薬品を選択
- 必要最低限の量・期間の服用に留めるよう説明
- 薬の服用についての心配事・質問がないか確認
- 緊急時の連絡先を示す
- 薬の服用を産婦人科医に伝えるよう説明

- ・豊富な使用経験のあるアセトアミノフェンなどは比較的安全
- ・アスピリン、ロキソプロフェンナトリウムは妊娠後期に服用しない

授乳婦さんの対応

処方箋調剤・OTC医薬品の販売

- 薬の服用の必要性を判断
- 授乳時、乳児に対する安全性の高い薬を選択
(母乳に移行しにくい、乳児に有害事象を起こしにくい)
- 必要最低限の量・期間の服用に留めるよう説明
- 薬の服用についての心配事・質問がないか確認
- 緊急時の連絡先を示す

日本の添付文書では、
「薬剤投与中は授乳中止」「授乳を避けさせる」が約7割

薬剤師会の取組例

「妊娠・授乳サポート薬剤師」の養成

(愛知県薬剤師会で平成22年に取組開始)

- 年に6回の日程で養成講座を実施
- 「妊娠中の女性と胎児の生理、先天異常」「母乳分泌の生理、母乳、乳児の生理」などを医師・大学教員等が解説
- データベースにサポート薬剤師が事例を報告、共有
- 最終回に修了試験を実施
(ペーパーテスト、情報源の活用や判断、コミュニケーションに関する実技等。修了課題として、薬剤師として実際に対応した10事例の提出も課している)
- 更新は5年毎。毎年5事例の提出と講座受講
- ステッカー、ポスター、缶バッジなどで国民向け周知
- 現在約350名が妊娠・授乳サポート薬剤師として認定



こんなお悩み、ありませんか？



お薬飲んだら
ミルクに切り替え
なきゃダメ？

本当に飲んで
良いのかな…

この子への
影響が心配…

赤ちゃんへの
影響は？



妊娠・授乳中のお薬の悩みは、

「妊娠・授乳サポート薬剤師」

にご相談ください。

「妊娠・授乳サポート薬剤師」は、(一社)愛知県薬剤師会が
開催する所定の研修を修了し、妊娠、授乳中の方からのご相談に
のり、適切なアドバイスができる薬剤師です。

妊娠、授乳中の女性からのお薬に関する疑問に対して、正確な
情報・知識に基づいてお答えいたします。



検索は
コチラ！

このシールが目印!! →
このシールが貼ってある薬局には
「妊娠・授乳サポート薬剤師」がいます。



http://www.apha.jp/medicine_info/entry-4384.html

妊娠授乳サポート薬剤師名簿

検索

愛知県薬剤師会ホームページで
お住まいの地域の「妊娠・授乳
サポート薬剤師」を探せます。



QRコードで
名簿ページへ
アクセス！

一般社団法人 愛知県薬剤師会

<http://www.apha.jp>

ポスター



ステッカー

表



裏



啓発カード

妊産婦さんと薬局の関わり

妊娠



出産



育児

妊娠検査薬の販売、健康食品販売、栄養指導、
マタニティー用品販売、処方箋調剤、
一般用医薬品等販売、各種相談対応、多職種連携

紙おむつ・粉ミルク・離乳食・授乳用品販売、栄養指導、
処方箋調剤、一般用医薬品等販売、各種相談対応、
多職種連携

妊娠・出産・育児をする方にとって、いつもの薬剤師・いつもの薬局
(かかりつけ薬剤師・薬局)との継続的な関わりが、安全・安心な暮らしの
支えのひとつとなる。